

以上ハ相州ニ於テ調べシモノナリ次ニ房州ニテ調べシモノヲ述ベシ。

沃度製造所ハ長須賀及北條ノ二ヶ所ニアリ長須賀製造所ハ明治廿一年七月同所上野隆郷再興シ北條製造所ハ同廿六年中高橋政之助之ヲ創立ス抑本州ニ於テ沃業創立ノ起原ハ嘉永年間高木芳齋高木柳齋上野隆郷杉山彌平治等相謀リ同志者ノ醜資ヲ得沃鍊製鍊會社ヲ設立シ製鍊師杉本信利ヲ聘シ大ニ本業ノ擴張ヲ圖ル然レドモ當時得失相償ハズ遂ニ二十餘ヶ月ニシテ解社ス爾來數ヶ年中絶廿一年ニ至リ製藥師山崎清三郎ヲ聘シ長須賀製造所ヲ興立シ又別ニ北條製造所ノ設立ヲ見ルニ至レリ其ノ經營多トスルニ足ルト。

又現在沃度製造業ニ従事セル某技師ノ談下ノ如シ。

明治五年北條町ニ裁判所ノ設置セラレシ當時判事トシテ出仕セシ吉田正弼社長ニ杉本信利技師トナリ杉山彌平治會計トシテ會社ヲ設立セリ其技師杉本信利ハ誰ニ依リ沃度製造法ヲ學ビシヤト云フニ同氏ハ元ト本多ノ士族ニシテ那古町ニ住セリ時ニ日下秀明ナル人來リテ食客トナル同氏ハ化學ニ精通セリ同氏曰ク予ノ書生中ニ品川ニ稱子會社ノ設立セラレシ當時技師トシテ雇ハレシ外國人ノ[ガール]ト云フ人アリ沃度ニ經驗アルヨリ同氏ニ就キ研究セリトテ杉本信利ニ教ユ杉本信利又熱心ニ化學ヲ研究シ明治七年頃ニ至リ一會社ヲ設立セシモノ不幸得失相償ハズ解散ノ止ムナキニ至レリ。

以上ハ吾等ノ聞キ及ビタル沃度製造業ノ沿革ナリ。

### 屋内害蟲ト驅除法トニ就キテ

理科第二部第四學年生 森安市野  
大島てい

我等最初コノ問題ヲ選ビタルトキニ、其内容ノ餘リニ平凡ナランヲ察シテ、其調査ニ少シク躊躇セリ、サレドコノ調査ヲ進ムルニ從ヒ屋内害蟲ノ繁殖ノ如何ニ廣クシテ如何ニ其被害ノ多大ナルカヲ覺エ我等ハ日常其被害ヲ目撃シナガラ、案外無頓着ニシテコレヲ看過スルハ畢竟彼等ノ經過習性ヲ知ラザル罪ニ座スルコト、考ヘシ故調査ヲ進メテ其ノ驅除法ト共ニコレヲ報告スルコト、セリ。

農産物ノ蟲害ハ夙ク世人ノ注意ヲ惹キ、豫防驅除ノ方法講ゼラレ、各地方共ニ其ノ獎勵ニ力メラレタル爲ニ其ノ被害ハ昔日ノ如クナラザルニ至レリ。然ルニ屋内害蟲ノ被害ニツキテハ世人餘リニ冷淡ナルガ爲メニ年々其度ヲ高メ、今日ニ於テハ毎年ノ被害高約二億五千萬圓ニ達ストイフ眞ニ驚クノ外ナシ、シカモ此ノ害ハ單ニ物質上ノ被害ノミニ止マラズ、害蟲ノ内ニハ或ハ怖ルベキ、傳染病ノ原因ヲナシ或ハ病毒ヲ媒介シ、更ニ進ンデハ吾人ノ貴重ナル生命ヲ左右スルモノアリ、[獅子心中ノ蟲ニ倒ル]トイフ古ノ諺ニ想ヒ比ベテ五分ニモ足ラザルカ、ル小サキ蟲ニ五尺ニ餘ル吾人人類ガカク迄ニ侵害セラル、ヲ思ヘバ慨歎ニ耐ヘザルナリ。

單ニ屋内害蟲ニ就キテトシテハ其内容餘リニ廣キニ過

ダシテ以テ日常ノ生活上、直接人體ニ害ヲ及ボス昆蟲ト被服害蟲トノ二ヲエラビ其大體ヲ報告スベシ。

○直接人體ニ害ヲ及ボス昆蟲

第一、尋常ノ蚤ハ英語ニテ「フリー」學名ヲ「ビユーレックイリノンス」トイフ。是ハ普通人類ニ寄生スルモノナレド獸類ニ寄生スルモノハ其ノ種類ヲ異ニセリ。シカルニ世人往々「私ノ宅ニハ猫ガ居マスノデ蚤ガ多クテ困リマス」ト云フガカ、ル理ハアラザルナリ。

ねすみノ蚤ハ先年モ「ベスト」ノ流行ニ際シ人類ニ其ノ病毒ヲ傳播シ最モ恐怖セラレタリ。蚤ノ種類ハ動物ニ依テ異ルガ故ニ蚤ガ人類ニ病毒ヲ媒介ストイフハ一見矛盾ノ様ナレドモ元來「ベスト」ハねすみノ病氣ニシテ、彼若シ一度コノ病ニ罹レバ忽ニシテ斃ル。コ、ニ於テ宿主ヲ失ヒタル蚤ハ諸方ヲ彷徨シテ新宿主ヲ索ムルニ當リ遇々人體ニ附着スレバ假ニ是ニ寄生シテ血液ヲ吸收シ、同時ニ病毒ヲ傳播スルナリ。

人類ニ寄生スル蚤ノ種類ト獸類ニ寄生スルモノトノ區別ハ體ニ生ズル剛毛節ノ有無、足毛ノ數等、科學的ニハ種々精細ナル點アレドモ素人向ノ區別トシテハ人類ノ蚤ハ獸類ノヨリモ色黒ク足ノ端ニ附着セル二本ノ爪ハ大ナルヲモツテ見分ケラルベシ。

蚤ハ吾人モ屢々經驗スルガゴトク一日ノ勤務ヲ終ヘテ家ニ歸リ漸ク眠ニ就カントスル頃、何處ヨリカ匍ヒ出デ、安眠ヲ妨害ス、大人ハ幾度カ蟻レテ免疫性ヲ有スルモ、幼兒ハ其苦痛ニ堪ヘザルモノ、如シ。

蚤ハ平常床下、畳ノ敷間、壁又ハ柱ノ割目等要スルニ塵埃ノ堆積セル所ニ蟄伏シテコ、ニ越年ス。カクテ翌春三月中旬氣温攝氏十二三度ニナレバ活動ヲ始メ下旬ニ至リテ産卵ス。故ニ之ヲ防ガンニハ未ダ産卵セザル前ニ疊ヲ上ゲ日光ニ曝シテ片腦油霧噴ヲカケ一方床ノ上、壁板ノ割目ナドニアル塵埃ヲ掃キ集メテ之ヲ燒棄シ尙「ナフタリン」ノ溶液ノ中ニ新聞紙ヲツケ其乾カシタルモノヲ床上ニ敷キツムルガ如キハ蚤ヲ驅除スルニ最モ有効ナル方法ナリ。

第二ニ蚊ニハ「キウレックス屬」ノモノト「アノブエレス屬」ノモノトアリ前者ハ尋常ノ蚊ニシテ敢テ危險ノモノナラザレドモ後者ハマラリヤ病ノ媒介者タル事ハ今更申ス迄モナク廣ク世ニ知ラル、事ナリ。吾人ガカ、ル小蟲ニ苦メラレ其害ヲ防ガンガタメニ蚊トリ線香ト「マラリヤ」ノ藥價治療代ニ年々三千五百萬圓許ノ資ヲ投ズト驚カザルヲ得ザルナリ。

之ヲ撲滅スルノ手段トシテハ其ノ幼蟲タル子子ノ未ダ水ニアル中火止石油ヲ流シ若クハ金魚鯉ナドヲ飼ヒテ之ヲ其餌トナサシムルナド人ノ熟知セル所ナリ。或人ノ説ニ蚊ノ幼蟲ノ撲滅法トシテ石油ヲ流スハ從來信ゼラレタルガゴトク子子ノ呼吸ヲサヘギルニアラズシテ其ノ化學的ノ作用ヲ利用スルニアリト何トナレバ幼蟲ヲ閉ヂ籠メタル器ヲ他ノ器ニ滿セル水底ニ沈メ置キ其ノ呼吸ヲサヘギル様ニナシタルモ、幼蟲ハ約九時間ヲ經テ尙死セズ然ルニ石油ヲ水面ニ流ス時ハ一時間許ニシテ死スルヲ以

之ヲ見ルベシト。但シ吾人ハ其ノ正否ヲ知ラズ。

直接ニ螫サレタル時、除蟲菊ノ[アルコール]浸出液又ハ[アンモニヤ]水ヲ塗布シテ痛ミヲ去ルト同時ニ其ノ局部ノ毒ヲ消スヲ良シトス。

第三ハ蠅ニツキテ述ベシ。

蠅ニハ、いへばへ。きんばへ。しまばへ。あをばへ等數多ノ種類アリ。イヅレモ成蟲ノマ、越冬シ翌春温暖トナルニ從ヒ漸次活動ヲ始メテ不潔物ノ上ニ集リココニ産卵シ同族ノ繁殖ヲハカリ、夏期ニ入レバ夥シク其ノ數ヲ増ス。蠅ノ怖ルベキハ赤痢、チブス、虎列刺、結核ナドノ微菌ヲ足ニ附着シ、無遠慮ニモ室内ニトビ入り、食物及食器ノ上ニ止マツテ病毒ヲ移シ遂ニ人體ニ感染セシムルニアリ。

俗ニ[五月蠅]ト書キテ[うるさい]ト讀ムガ蓋シ蠅ハうるさきモノ長ナルベシ。シカレドモ其ノ最モうるさきヲ感ゼシムルハ五月頃ヨリモ、ムシロ夏ノ末ヨリ初秋ノ頃ニシテ外氣ノヤ、冷エ來ルニ從ヒ、自衛ノ爲ニ屋内ニ集來スル時ニアリ。

蠅ノ中最モ多キハいへばへニシテ、學名ヲ[ムスカトメスチカ]ト云フ。蠅ハ一般ニ生魚ヲ好ムモノナレドモ殊ニ背面ニ青色ノ金光ヲ帶ベルきんばへハ一種特別ノ毒素ヲ分泌スルガ故ニ、其ノ附着セル刺身ナドヲ小兒ニアタヘタル爲ニ小兒ハ一時間以内ニ劇シキ熱ヲ發シテ、苦悶スル事アリ。家族驚キテ醫師ノ許ニ驅ケツケ診察ヲ乞フモ醫師ハ其ノ理由ノ何タルカヲ察スル能ハズ多分食中リナラント過ス事、敢テ珍ラシカラズ。サレバ食物ニハ一切蠅ノトマ

ラヌ様スル事肝要ナリ。斯ク發熱スル事アリトモ、敢テ驚クニ足ラズ徐ロニ頭部ヲ冷却シ相當ノ手當ヲ施シテ、二三時間ヲ經レバ毒素ハ或ハ自ラ嘔吐セラレ、或ハ便ト共ニ排出セラレ熱ハ自然ト下降スルモノナリ。要スルニ蠅ハ意外ニ危險ナルモノ殊ニ頃日ノ如ク虎列刺ノ流行スル時ニハ一層注意スベキモノナリ。

蠅ノ驅除法ニ就キテ一言センニ蠅ノ發生スル場所ハ種々アリ。就中塵箱、牛馬ノ床糞、便所等ハ最モ普通ナル發生所ナリ。蠅ノ驅除法ハ其ノ幼蟲タル蛆ノ時代ニ施スヲ最モ簡便ニシテ有効ナリトス。其ノ方法ハ日毎ニ一摘ノ石灰ヲ撒布スルカ、或ハ石炭酸、クレシン片、腦油、炭酸ナトリウムト漂白粉ノ四者ヲ混ジタル水溶液ヲ注ギ掛クルニアリ。就中炭酸ナトリウム及ビ漂白粉ノ溶液ハ臭氣ナク、シカモ、驅除ノ効アルガ故ニ最モ良法ナリトス。

室内ニ飛ビ來ル成蟲ノ驅除ニハ普通蠅たゝき、蠅採瓶ナドヲ使用スルモ、近來バネ仕掛ノ自動蠅採器一名[ハイトリック]ナルモノ發明セラレ、其ノ成績有効ナリトス。

尙蠅たゝきニテ採リタル場合ニ世人ガ無頓着ニ其ノ死骸ヲ放置スルハ危險ナル業ナリトス。何トナレバ一匹ノ蠅ノ體ニハ約廿五萬ノ微菌附着スルヲ以テナリ、其ノ死骸ハ必ズ沸騰水ニ投ズルカ酢ニ入ル、カ適當ニ處置スルヲ要ス。

其他直接人體ニ害ヲ與フル害蟲ニハしらみ、だに、南京蟲ナドアレドモ今ハ之ヲ略ス。

以上述べ來タリタル事柄ハ多ク世人ノ熟知スル所ニシ

テ陳腐ニ屬スルガ如クナレドモ、此ノ珍ラシカラヌ普通ノ事ニハ慣レテ却テ注意ヲ怠リ、圖ラザル危険ヲ招クモノナレバ敢テ之レヲ報告セルモノナリ。

### ○被服害蟲

被服害蟲ニツキテハ、未ダ世人ノ注意ヲ惹クコト少ナキニ拘ラズ、其ノ被害大ニシテ、何處ノ家ニ於テモ押入ニ、箆筒ニ、行李ニ夥シク蕃殖シ、恐ルベキ狀ヲ呈スルハ事實ナリ。コレモ亦前ニ述べタル衛生上ノ害蟲ト相並ビテ等閑ニ附スベカラザル事ナリ。其ノ種類甚ダ多ケレド、コ、ニハ只極メテ普通ナルモノ、ミニ止メン。

吾人ノ一般ニ衣服ノ材料トスル動物性製品、例ヘバ、ラッヤ、ネル、セル、メリンス等ヲ蝕害スルモノハ、鯨節蟲ノ類ト蛾ノ類ナリ。

鯨節蟲ハ、甲蟲類ニシテ其ノ中ニ色々ノ種類アリ、イヅレモ一分内外ヨリ三分ヲ超エザル小蟲ナリ。其ノ成蟲ハ五月中旬頃、午前九時頃ヨリ正午頃迄ノ間ニ、群ヲナシテ特ニ菊科植物ノ花ノ上ニ集マル故ニ此ノ季節ニ其花ヲ探グレバ、鯨節蟲ノ數種ヲ採集シ得ベシ。其ノ花ニ集マレルハ交尾ノタメニシテ、後ニ雌ハ室内ニ飛ビ込ミ幼蟲ノ食物ト成ルベキ動物性製品ニ産卵スルナリ。五、六月ト言ヘバ夏物ト冬物トノ交代ノ季節ニシテ多少發汗ヲ催ス頃ナレバ一度外出シタル後ハコレヲ室内ニ掛ケ置クラ常トス。此ノ衣服ハ是等害蟲ノタメニハ最良ノ産卵場ニシテ、吾人ニテハ極メテ危険ナル時ナリ。其ノ産ミツケラレタル卵ハ

種メテ小サク、肉眼ニテハ到底見ル事能ハザルガ故ニ、人ハ少シモ心附カズ其ノ儘疊ミテ之レヲ箆筒、長持或ハ行李等ニ藏ムルナリ。斯クシテ、衣服ニ包マレタル卵ハ、五日乃至七日ヲ經レバ孵化シテ幼蟲ト成リ、漸次成長シテ毛織物ヲ蝕害ス。此ノ幼蟲ハ其ノマ、越年シ、翌年ノ四月頃蛹ト成ル。此ノ間、實ニ二十數回ノ脱皮ヲナストイヘドモ、其ノ皮ハ既ニ動物性ナルヲ以テ之レヲ餌トシ、從ツテ飼育器中ニハ其ノ皮ヲ見ルコトナシ。供覽標本ハはなまるかつを、ちびまるかつを、ちびかつを、きいろひめかつを、ひめかつをむしノ飼育器中ニ生活セルモノナリ。コレラノ中ひめかつをむしノミハ、幼蟲ノ状態ニテ滿二年ヲ經過ス。次ニ穀蛾ノ類ニツキテ述ベントス。

穀蛾モ前ト同様ニ雌ハ五、六月頃被害物ノ上ニ點々ト産卵シ其ノ數ハ二十四、五粒トス。孵化シタル幼蟲ハ穀蛾ノ中最普通ナルモノハ、衣蛾及ビ小衣蛾ニシテ、其ノ幼蟲ニハ面白キ性質アリ、恰モ蠶蟲ノ如ク一種ノ囊ヲ構成ス。囊ハ種類ニヨリテ多少構造ヲ異ニシ、衣蛾ノ囊ハ兩端共開キテ管狀ヲ成シ、常ニ其ノ中ニ潜ミ、時々出デテ食ヲ索メ、物ニ驚クトキハ周章シテ引キ込ミ、身邊靜マレバ復這ヒ出ヅルモ、衣蛾ハ決シテ全身ヲ囊ノ外ニ露出スルコトナク、唯半身ヲ出スニ止マル。次ニ小衣蛾ノ囊ハ被害物ニ固定セラレ、體ヲ露出スルコトナク、被害ノ進路ニ沿ヒテ囊ノ長サヲ増シユクナリ。斯クシテ、幼蟲ハ越年シ、翌春四月下旬囊ノ中ニテ蛹ト成リ、約三週間ヲ經テ羽化シ、成蟲トナルナリ。供覽

標本ニハ衣蛾、小衣蛾ノ飼育器中ニ生活セルモノ及ビもうせんが、まだらこいがヲ出セリ。

世間ニ、白蟻モ被服ヲ蝕害スル如ク唱フルモノアリ、實際白蟻ハ衣服ヲ害セザルニ非ズトイヘドモ、衣服ハ、彼等ノ目的トスル食物ニアラズ、唯場合ニヨリ彼等ノ生活範圍ヲ廣ムル一方便トシテ、其ノ通路ヲ妨グルガ如キ衣服ヲ蝕ヒ破ルニ外ナラズ、從ヒテ絹、木綿、毛織ノ別ヲ問ハズ彼ノ「コンクリート」ヲモ侵害スル事實ハ、全ク同一ノ理ニ由ルナリ。

次ニ、普通用ヒラル、驅除法ニツキテ述ベム。

一、「ナフタリン」ハ、今日廣ク世間ニ用ヒラル、藥品ニシテ金屬ヲ侵ストイフ事ナク、害蟲ノ豫防劑トシテ極メテ有効ナリ、然レドモ殺蟲劑ニハアラザルナリ。或說ニ、永ク之ヲ用フレバ昆蟲ハ不感受性ヲ得、單ニ之ヲ忌避セザルノミカ、終ニハ其ノ中ニアリテ蕃殖スルニ至ルトイフ、故ニ獨逸國ニテハ近時「ナフタリン」使用額ハ漸次減少セリト。又「フナタリン」ハ一種不快ノ臭氣ヲ有スルヲ以テ、之ヲ使用スルニ當リ、宜シク樟腦ヲ混ズベシ。兎モ角モ、「ナフタリン」ハ、廉價ナル上ニ豫防力大ナル點ニ於テ、ノ良劑トイフベシ。

二、樟腦ハ、古來使用シ來レル驅蟲劑ニシテ、毫モ動植物ノ品質ヲ損セズ、「ナフタリン」ノ如キ臭氣ヲ有セザルガ故ニ、常用スベキモノナレドモ、純金ヲ除クノ外、凡テ金屬ヲ侵シ酸化作用ヲ起シテ變色セシメ、甚シキハ其ノ品質ヲ惡變スルノ缺點ヲ有ス。例ヘバ文武官ノ、大禮服ノ如キ金モールヲ附シタルモノ、婦人ノ裾模様アル着物、半襟、帶厚板、緞子、齒谷

織等ノ銀絲金絲ノ織込マレタル物ハ漸次變色シ、高價ノ品モ其ノ美觀ヲ失フニ至ル。又三月ノ雛人形、五月幟ノ如ク各種ノ金屬製ノ絲ヲ用ヒテ細工シタル物モ、時ニ黑色ヲ帶ビテ金銀共ニ固有ノ光澤ヲ失フコトアリ、サレバ、樟腦ノ使用ニハ品物ノ種類ニ從テ周到ノ注意ヲ要ス。

三、固形ホルマリンハ「ホルマリン」ヲ凝結シタルモノニシテ、昆蟲ニ對シテハ唯有力ナル殺蟲劑タルノミナラズ、豫防劑トシテモ甚ダ有効ナリ。此ノ藥品ハ、空氣殊ニ太陽光線ニ觸ルレバ、忽チ發散スルガ故ニ、筆筒又ハ行李ヨリ出シタル衣服ニ「ナフタリン」ノ如ク、永ク臭氣ヲ止ムル事ナシ、是ヨリ發スル有毒瓦斯ニハ、大ナル効力アリテ實ニ「ナフタリン」ニ優ルコト十數倍ニ相當ストイフ。金屬ニ及ボス酸化作用ハ樟腦ト同様ニシテ私ノ實驗ノ結果ニ樟腦ヨリモ却テ烈シク、殊ニ直接ニホルマリンニ觸レタル部分ハ十日ヲ經ズシテ、甚シク侵サレタルヲ見ル。サレバ、其ノ使用ニモ特ニ注意ヲ要シ、又揮發性强キガ故ニ、木綿或ハ絹ノ布片ニテ包ムヲ良シトス。尙「ホルマリン」ハ、黴菌ニ對シテモ著ルシキ撲滅性ヲ有スレバ、其ノ寄生シ易キ皮革類ノ貯藏ニハ至極効多シ。又前ニ述ベタル蚤ノ驅除法ヲ行ハントスルニ際シ、其ノ二、三粒ヲ疊ノ下ニ置カバ、嘗ニ害蟲ノ豫防及ビ驅除トナルノミナラズ、殺菌法モ絶エズ行ハルヲ以テ、衛生上極メテ有効ナリトス。

四、二硫化炭素ノ燻蒸ハ、今日我ガ軍隊ニテ一般ニ用ヒラル、法ニシテ、夥多ノ物品ヲ短時間ニ完全ニ殺蟲驅除シ得

ル良法ナリ。維新以後、陸海軍ノ軍隊ニ於テハ、被服害蟲ノ驅除法ニツキテ、種々ノ苦心ヲツクサレ、或時ニハ蒸氣殺菌法ヲ行ヒ、或ル時ニハ片腦油殺菌法ヲ施シタレドモ、イヅレモ利害相伴ヒ、即チ前者ニ於テハ、革類乾固シ、軟弱ト成リ使用ニ堪ヘザルニ至リ、後者ニ於テハ、其ノ油羅紗ノ目ニ浸ミ込ミテ、始末ニ困却セリ。イヅレノ場合ニ於テモ、多額ノ費用ヲ要シテ、當時ノ殺菌驅蟲法ノ經費ハ一萬七千圓ニ達セリ、然ルニ爾來ニ硫化炭素法ヲ行フニ至リテ、僅ニ八百圓ニ減却スルヲ得タリ。其ノ分量ハ部屋ノヒロサ千立方尺ニ對シ、[ホルマリン]ハ三乃至五封度(一封度十二錢位)ニテ足リ、若シ被服ヲ堅ク疊ミ込メル物ナラバ、曝晒スル時間ハ一晝夜、擴ゲタル衣類等ニテハ、三乃至五時間ニテ事足ルベシ。

五、新聞紙ハ衣服ヲ包ミテ驅蟲ノ効アルガ如シ、是ハ恐ラク其ノ害蟲ガ印刷用インキヲ嫌フガタメナルベシト云フ。

六、火熨斗衣類ヲ疊ミ、仕舞ヒ込マントスルニ當リ、是ニ火熨斗ヲ掛クル事ハ有効ナル一殺蟲法ニシテ、是レ産ミ附ケラレタル卵ハ勿論、微菌ノ孢子ノ如キモノモ炙殺セラレ、ヲ以テナリ。

以上述ベタルガ如ク、吾人ガ屋内害蟲ノ爲ニ受クル所ノ害ハ莫大ナリトイフベシ、其ノ驅除及ビ豫防法ヲ講ズル事ハ小ニシテハ個人經濟ノ爲メ、大ニシテハ國家經濟ノ爲ナリ。

殊ニ家ナルモノニ最モ親ミ多キ吾人女子ハ、先ンジテ彼等害蟲ニ就テ確實ナル知識ヲ有シ、以テ被害ヲ免ル、方法ノ實行ニ努ムベキナリ。

## 古來ノ想像動物ニ就テ

理科第二部第四學年生 松本 うら

一、辰 辰ハ即チ龍ニテ、全ク想像上ノ動物ナリ。和名抄ニ「身ハ大蛇ニ似テ、脊ニ八十一ノ鱗ヲ具ヘ、手足ニ各々五本ノ指アリ、角二本、耳アリ、面甚ダ長ク、最モ猛烈ナル相ヲ呈シ、鱗蟲ノ長ナリ、能ク雲ヲ起シ、雨ヲ呼ビ、神靈測リ難シ」トアリ。

又本草綱目ニ「龍ノ形ニ九似アリ、頭ハ駝ニ、角ハ鹿ニ、眼ハ鬼ニ、耳ハ牛ニ、頂ハ蛇ニ、腹ハ蜃ニ、鱗ハ鯉ニ、爪ハ鷹ニ、掌ハ虎ニ似タリ。脊ニ八十一ノ鱗ヲ具ヘ、其ノ聲銅盤ヲタ、クガ如シ、口ノ傍ニ鬚髯アリ、頷ノ下ニ明珠アリ、喉ノ下ニ逆鱗アリ、頭上ニ博山アリ、尺水ト名ヅク、其尺水ナキハ則、天ニ昇ル事能ハズ、氣ヲフキ雲ヲ興シ、水ニ變ジ、又ヨク火ニ化ス。

性ハ獍猛ナレドモ、美玉青空ヲ愛シ、好ンデ燕肉ヲ食シ、鐵、燕麥、蜈蚣、煉葉、五色ノ糸ヲ畏ル、故ニ燕ヲ食フモノハ水ヲ渡ル事ヲ忌ミ、雨ヲ祈ルモノハ燕ヲ用ヒ、水患ヲ鎮ムルモノハ鐵ヲ用ウ。龍ハ春分天ニ昇リ、秋分淵ニ入ル」トアリ。サレバ龍トハ全ク蛇ト鱷魚トヲ併セ、其レニ角ト耳トヲ附シタルガ如キモノナリ。たつハ即チ起ノ義ニシテ、其ノ天ニ昇ルヲイヒ、古ニハ蝮蛇ヲモたちトイヘリ。凡テ龍蛇ノ類ヲたつ又たちトイフハ、只其ノ語ノ轉ジタルモノト思ハル。古事記ニハ「海神ノ女、豐玉姬ノ此ノ國ニ來給ヒシ事ヲシルサレテ、自ラ大龜ニ馭ストモ、又龍ニ乘リテ來リシトモアリ、